

近年医学は著しい進歩を遂げた”と言ふ表現は、実は何時の時代にも使われる陳腐な常套語に過ぎません。でも、これが人々に過大な期待感を与え、予防医学を疎かにする一因になるとしたら、看過できない問題です。

医学は確かに日進月歩で進歩していますが、病人の”治して貢う”と言ふ願いに答えるのかについては、見直す必要があります。

例えば最近20年間の医学の進歩を振り返っても、主として診断学に関するものです。これに

診断学と治療学は別
近年医学は著しい進
歩たと言ふ表現は、害
の時代にも使われる陳腐
語に過ぎません。でも
人々に過大な期待感を与
防医学を疎かにする一因
としたら、看過できない
す。

しかし、病人に大切なことは、調べて貰う”ことではなく、”治して貰う”ことです。でも現代医学の現状は、”治る病気”か”治らない病気”かの篩い分けをするのが精々で、”何んでも治せません。”水準には到底達しておりま



サナモア光線協会

医学は未だ“何故病気になるのか”と言う最も基本的な命題をも解明し得ないでいます。それ故、殆んどの場合、対症療法を行なわざるを得ませんが、この治療に付き物の副作用に絞り考察します。

つた昭和30年代、当時の腎臓病の大家権威と言われた人が、重篤な副作用のない治療剤として推奨していくことを思い出します。しかし、その後の研究で、治療上は殆んど無効、副作用は失明と言う最悪の結果で終りました。これらの事実も、治療薬の進

宮、心臓、肝、脳などで少しづつ異なる構造のものが生成され、各々が多様にしてかつ重要な生理作用を持ち、既に一部臨床にも応用されていて、昨年度のノーベル医学、生理学賞を受賞したプロステラグランデインなどがあります。

誤の繰り返しの域を脱し切れず
にいます。今から直ぐ始められる養生が
大切です。その一つにサナモア療法を
加えて下さい。毎日20~30分間、サナモアで光線浴を統ければ、予防医学の立場からも有益なことは言を俟ちません。

■薬の不足は病気の原因でないが
光線の不足は病気の原因になる

現代医学の限界

—予防に優る治療はない—

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

—予防に優る治療はない—

生理活性物質の治療への応用

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

生理活性物質とは、生体内で作用され、重要な生理作用を果す物質のことですが、これを治療のために使用する方法が研究され、ることが大切です。

歩の道程では止む得ないことと、言つてしまえばそれまでですが、副作用のない薬はなく、起くるから、特に経過の遷延する慢性疾患では、無理な治療をしないことが大切です。

■薬の不足は病気の原因でないが光線の不足は病気の原因になる。作用は研究途上にあり、評価は既にインターフェロンの副作用については、アメリカで大量投与に発癌性があると報告されていますし、フランスでは心筋梗塞を起す恐れがあるため使用中止の処置がとられています。この副作用は追試確認されていますが、今後の報告に注目が必要があります。

いずれにせよ、生理活性物質を薬として使用するのではなく、時に応じて十二分に生理作用を発揮できる身体作りが理想です。

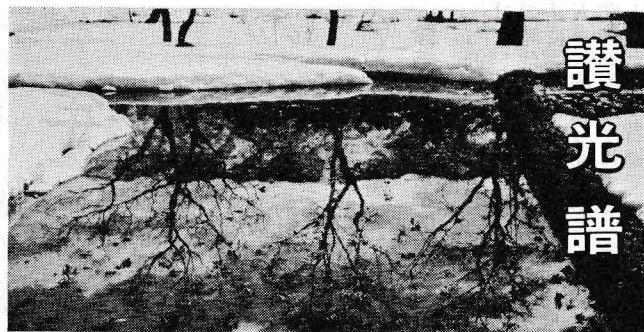
予防に優る治療はない

医学の限界を打破する最善の手立ては、自然に帰る必要があります。誰もが、天気の良い日は屋外に出て、新鮮な空気を吸い、日光浴を楽しむ必要があります。食事は旬(シチュ)のものをバランスよく食べることが大切です。

多くの医学者およびその周辺の学者の努力にもかかわらず、健康と病気に関する諸問題は、なお人智を超えたところにあります。特に治療医学は、試行錯誤の繰り返しの域を脱し切れずになります。今から直ぐ始められる養生が大切です。その一つにサナモアを加えて下さい。毎日20~30分間、サナモアで光線浴を続けば、予防医学の立場からも有益なことは言を俟ちません。

健康と光線

発行所
〒153 東京都目黒区目黒
4-6-18
サナモア中央診療所内
サナモア光線協会
年4回発行
会費 年500円
電話 東京(03) 793-52281
712-53222



一、病気を診ずして

病人を診よ

現代医学は、「病氣」という抽象的概念にとらわれて、やや

もすると「病人」という具体的な事実を忘れ易い傾向があります。

病気の原因は単に人体の「臓器の破損」や「組織の失調」のみではなく、その人の環境の総和によるものでありますから、胃腸病は胃腸のみの病気でなく、心臓病は心臓のみの病気でなく、すべて全身病であります。

そこで身体をバラバラに見る
「生命機関説」を断然排撃して
「生物学的医学」を高唱する必
要があるのであります。

二、症状

現代医学に於て、症状と称して抑制これつとめている発熱、咳嗽、疼痛、下痢、発疹等は、実は体内的有害物を排除するのでありますから、病気の治療上

東京市立広尾病院長、加用博士の「喘息根治への道」より借
用しました。

らなくなります

四二〇

「医者の門を出る病人で、薬を携えないものが、随分夥しくなることであろう。」と、

患者が満足し、生活も豊かに出
来るものだつたら、患者に与える
薬の数が現今よりは遙かに減
じ、医者の門を出る病人で、薬

ることは出来ぬが、僅か數十分間日光にさらせばこれを救うことを得るではありますか。

宝都宮 義直

真の治病健康法

いがく、
身をくれる圖

人類あつて以来五十萬年、そ
の間に驚くべき生存の適応性と
低抗力とを養成し、偉大なる自
然治癒能力を享有したる人間の
治病の根本は、個有の治癒恢復
の機能を帮助達成せしむる事が
最も合理的で、而もその全部と
いってよいのであります。

「誰でも病気にかかると、何はさて置き薬はないかと薬の探索にかかるが、千人が千人みんな

四、眞の治病健康法

に必要な治癒反応と認むべきであって、無闇に抑圧してはなりません。

「誰でも病気にかかると、何はさて置き薬はないかと薬の探索にかかるが、千人が千人みんな

「光と熱」昭和14・9・1発行
— 病気と薬 —
より要約した。

光と熱 昭和10・8・5 発行
— 真の健康法 —

光線療法は、もつともつと普
及しなければなりません。

(ク) ル病の原因については、奇しくも一九一九年に、ハルド・シングスキーの光線欠乏説と、メランビーの栄養欠乏説とが、同じくして発表されたが、当時は、異なる病因論の間の繋り合は皆目不明で、なお研究の積み重ねを必要としていた。

そして、クル病研究の潮流は、イギリス医学会が、メランビー説を採択したこともあって、栄養欠乏説への傾斜を一段と強めるのである。

既に前号で、両学説を比較対比して考察した際に述べた様に、メランビーの栄養欠乏説には、実験の前提条件に誤りがあったが、実験的クル病をタラ肝油で治す治療経過には落ち度がなかつたため、実験上の不備は認識されにくかったのである。ところで、メランビーの実験の追試をする過程で、タラ肝油から抗クル病効果を持つ脂溶性因子を分離し、これがビタミンAでないことを証明して、ビタミンDと命名し、クル病をビタミン欠乏症に分類する上で決定的な役割を果したのが、アメリカの栄養学者でビタミン学の泰斗と言われた、エルコ・マックコラム(写真)である。

麻用半綫審法學

□ ビタミンDの作用 □

その13



McCallum, Elman, Vassar

(1879~1969)

医 学 博 士
宇 都 宮 光 明

この問題にはほぼ決着をつけた。
この一事を以つてしても、白然は完全無欠なことが分るのである。

診断にはケル病と診断され、ここにも医師の認識の浅いことが示された。次の共通点は、添加食品をとらないことである。即ち、菜食主義者の子供とか、母乳栄養児とか、光線感受性の低い黒人の子供とか、魚を食べなくなつたエスキモーの子供とかである。いずれも、光線浴を中心とした習慣を守つて、いれば、単にケル病を防ぐだけでなく、より一層の健康も手に入れることができるることは言うまでもない。

(脇) 溶性のビタミンAと、水溶性のビタミンBとの分離に成功したことでも知られるマックラムは、メランビーの報告に注目し、“ラットをメランビーの‘クル病原因食’で飼育して実験的クル病の作成を試みたのである。

いためで、症状や病理所見が似ても、自然のクル病とは全く異質な疾患である。従って、光線もタラ肝油も治療効果はなく、治療はリンの投与しかないのである。自明のことである。

が原因とする視点が弱まり、栄養欠乏説に力点が置かれるようになり、延いては今日まで影響を与えているのである。

しかし、マックコラムは、同時に正鶴を射る研究をしており、むしろ光線の重要性を強調しているのである。即ち、各種食品のビタミンD含有量を調べ、例えばバター・やラードのような動物性脂肪にも、必要量のビタミンDはないことを明らかにし、太陽光線の乏しい環境では、魚類以外の食品では、クル病を防

この問題にはほぼ決着をつけた。この一事を以つても、自然是完全無欠なことが分るのである。

(ビ) タミンD欠乏症について

言えば、文明が私たちの生活様式を一変させ、自然環境を壊さなければ無縁の病気であり、先祖伝来の生き方を大切にしていれば、例え日光の乏しい北の方でも、魚を食べて長い冬を凌ぐことが出来たのである。

診断にはケル病と診断されても、ここにも医師の認識の浅いことが示される。次の共通点は、添加食品をとらないことである。即ち、菜食主義者の子供とか、母乳栄養児とか、光線感受性の低い黒人の子供とか、魚を食べなくなつたエスキモーの子供とかである。いずれも、光線浴を中心とした習慣を守つて、いれば、単にケル病を防ぐだけではなく、より一層の健康も手に入れることができるることは言うまでもない。

A black and white portrait of Elmer Verner McCollum, M.D., a man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie.

McCollum, Elmer Verner

(1879~1969)

医学博士
宇都宮 光明

述べ、光線欠乏説の正しいことを認めいたのである。

(と) ところで、全く光線が照射しない海中に棲息する魚にだけ多量のビタミンDがある理由だけを溜めるのか、自から撮ったのを撮られるのか、二つの可能性が論じられたが、最近アメリカのブローディンが、魚類には鳥類や哺乳類にならビタミンDを合成する系があることを証明して、

この問題にはほぼ決着をつけた。この一事を以つてしても、自然是完全無欠なことが分るのである。

(ビ) タミンD欠乏症について言えば、文明が私たちの生活様式を一変させ、自然環境を壊さなければ無縁の病気であり、先祖伝来の生き方を大切にしてい

ぐ方でも、魚を食べて長い北の方で、例え日光の乏しい北の地に出たのである。冬を凌

(換) 言すれば、ハルドシンスキー や マックコラムらが、ビタミンDは主に光線浴で補給し、それが出来ない環境下では魚類が供給源になり、その他の食品では代用し得ない自然のルーカーの栄養学は、食品にビタミンDを添加して補うか、ビタミン剤で補へば事足りるとして、先人の業績をないがしろにする傾向がある。例えば、アメリカでは牛乳に添出し、日本では米に添加したりしたのが、その例である。牛乳に添出し、日本では米に添加したりしたのが、その例である。

熱があつても掛け
ても良いですか

冬は風邪を始め、兎角、熱の出る病気に罹り易い季節です。こんな時に光線を掛けると、熱の出ている病人を更に温めることになるので、却って悪くなるのではと心配する人がいます。

でも、卵酒を飲んで蒲団を被つて寝る"のでも、熱は下がります。

熱が出る前兆として、自覚的には寒気がしたり、ふるえがきます。この状態から、身体中が火照つてしまえば、大概熱発しています。そして、もし次にびっしりと汗が出れば、熱は必ず下ります。そうです。熱を無理なく自然に下げるには、身体を温めて汗が出やすくなることが大切なのです。これで、先に述べた卵酒の効用も分ります。

さて、光線を使った場合を考えます。主に足裏、足の甲、ふくらはぎなど足に30分も掛けますと、身体の芯から温まり、発汗を促すので解熱するのです。

もし熱の原因が風邪と分つて

線を浴びると、奇型児が生まれる可能性のあることは良く知られていますので、光線浴はどうなのか、万一のことを心配して問い合わせてこられるのでしよう。

線を浴びると、奇型児が生まれる可能性のあることは良く知られていますので、光線浴はどうなのか、万一のことを心配して問い合わせてこられるのでしよう。

赤ちゃんに掛けて
も良いですか

を配り、定期的に血压、尿検、貧血などを調べ、異常が無ければ良しますが、これだけでビタミンDが足りませんので、胎児の健全な発育のために必要なカルシウムの吸収が円滑に運びません。この事態を避けるため、驚くべきことに、妊娠の光線感受性は、非妊娠時の1・5



光線110番

サナモアを使用する切掛けは、知人に勧められたと言う方が殆んどですが、それぞれが自身の体験を基に話すため、例えば腰痛の治った人は腰痛で苦しんでいた人には自信を以って勧めますが、他の病気に使う段には、幾ら光線療法学を参考にしても、なお多少とも不安を抱くことが間々あるようです。中でも比較的多く厄介なのは、常識に照らして掛けてはいけないと思い込んでしまう場合です。これも初めて使う時には已むを得ない面もあると思います。これが、実際問題として、日常経験する病気で掛けて悪くなる気遣いは要りませんので、健康法と思って掛け見て下さい。そうすれば、追い追い光線療法の応用範囲が分ってきます。同時に、自分自身の回復力の素晴しさに気が付く筈です。これから述べることは、既に色々な病気を利用して経験を持つ人には馴染に説法ですが、未経験な人も躊躇することなく使用して貰える様に、「掛けても良いですか」と言う問合せが多い事項の二・三につき説明します。

一般的には、妊婦は栄養に害の無いことは言う迄もありません。それよりも、妊娠中の光線浴は是非ともしてほしいものなのです。

サナモアの愛用者の方には、この事実を常識の域まで高めて頂きたいと常々考えています。また妊娠合併症の予防や治療にも有効ですから、サナモアを積極的に利用して、丈夫な元気な

倍になることが分っています。光線浴は、この機序を確実に助けています。サナモアの愛用者の方には、この事実を常識の域まで高めて頂きたいと常々考えています。また妊娠合併症の予防や治療にも有効ですから、サナモアを積極的に利用して、丈夫な元気な

倍になります。その上、ウイルスに対する抵抗力を増し、体内の毒素を中和するので、回復も早めます。

サナモアの愛用者の方には、この事実を常識の域まで高めて頂きたいと常々考えています。また妊娠合併症の予防や治療にも有効ですから、サナモアを積極的に利用して、丈夫な元気な

母乳で育てる方も増えているようですが、しかし本号の応用光線療法学でも触れたように、母乳も有効ですから、サナモアを積極的に利用して、丈夫な元気な

赤ちゃんを生んで下さい。

このように、このような訳ですから、特に日光浴のさせにくい冬には、サナモア光線浴をさせてあげて下さい。乳幼児は、寝ている時に集光器を使って、わずかに温かみを感じる距離まで離して掛け

卵酒を飲んで蒲団を被つて寝る"のでも、熱は下がります。

熱が出る前兆として、自覚的には寒気がしたり、ふるえがきます。この状態から、身体中が火照つてしまえば、大概熱発しています。そして、もし次にびっしりと汗が出れば、熱は必ず下ります。そうです。熱を無理なく自然に下げるには、身体を温めて汗が出やすくなることが大切なのです。これで、先に述べた卵酒の効用も分ります。

さて、光線を使った場合を考えます。主に足裏、足の甲、ふくらはぎなど足に30分も掛けますと、身体の芯から温まり、発汗を促すので解熱するのです。

もし熱の原因が風邪と分つて

を配り、定期的に血压、尿検、貧血などを調べ、異常が無ければ良しますが、これだけでビタミンDが足りませんので、胎児の健全な発育のために必要なカルシウムの吸収が円滑に運びません。この事態を避けるため、驚くべきことに、妊娠の光線感受性は、非妊娠時の1・5

卵酒を飲んで蒲団を被つて寝る"のでも、熱は下がります。

熱が出る前兆として、自覚的には寒気がしたり、ふるえがきます。この状態から、身体中が火照つてしまえば、大概熱発しています。そして、もし次にびっしりと汗が出れば、熱は必ず下ります。そうです。熱を無理なく自然に下げるには、身体を温めて汗が出やすくなることが大切なのです。これで、先に述べた卵酒の効用も分ります。

さて、光線を使った場合を考えます。主に足裏、足の甲、ふくらはぎなど足に30分も掛けますと、身体の芯から温まり、発汗を促すので解熱するのです。

もし熱の原因が風邪と分つて

を配り、定期的に血压、尿検、貧血などを調べ、異常が無ければ良しますが、これだけでビタミンDが足りませんので、胎児の健全な発育のために必要なカルシウムの吸収が円滑に運びません。この事態を避けるため、驚くべきことに、妊娠の光線感受性は、非妊娠時の1・5

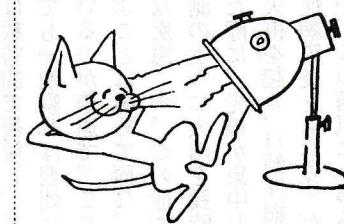
卵酒を飲んで蒲団を被つて寝る"のでも、熱は下がります。

熱が出る前兆として、自覚的には寒気がしたり、ふるえがきます。この状態から、身体中が火照つてしまえば、大概熱発しています。そして、もし次にびっしりと汗が出れば、熱は必ず下ります。そうです。熱を無理なく自然に下げるには、身体を温めて汗が出やすくなることが大切なのです。これで、先に述べた卵酒の効用も分ります。

さて、光線を使った場合を考えます。主に足裏、足の甲、ふくらはぎなど足に30分も掛けますと、身体の芯から温まり、発汗を促すので解熱するのです。

もし熱の原因が風邪と分つて

を配り、定期的に血压、尿検、貧血などを調べ、異常が無ければ良しますが、これだけでビタミンDが足りませんので、胎児の健全な発育のために必要なカルシウムの吸収が円滑に運びません。この事態を避けるため、驚くべきことに、妊娠の光線感受性は、非妊娠時の1・5



—治驗例報告—

腰、背、後頭部（小脳）、眼の順で各5分照射、一回目は眼5分、後頭部（第一集光器）5～10分照射した。

治療を始めてから一週間目に、自力で少し呼吸が出来る様になった。また、頭を左右に動かしたり、両肩を上下に動かすことも、ある程度可能になり、現在希望をもつて治療継続中である。（この症例は、現在も入院中ですが、この分だと三ヶ月もしましたら助けることが出来そうです。今後の経過については、改めて報告する予定です。）

症状 未熟児で生まれた。生後、頭が普通より大きく、発育も遅れ気味で、医師から頭に水が溜まっているので暫くしてから手術して水を取ると云われてゐる。

生後三ヶ月の時に来所、最初若い両親は光線療法の説明に半信半疑のようであった。

療法経過 Aカーボンを使い腹部(第一集光器)膝から足首背から腰、後頭部(第一集光器)

大火傷の治療体験

春日市 前田光線治療所
前田 ミサ

症例 60才 男性
症状 白内障のため両眼とも失明同様で、テレビも見えず、外出時は家族が付き添い手を引いていた。
昨年11月に相談に来られた時には、見える様になるか保証することは出来ないが、可能性を信じて、光線療法をしてみる様にすすめた。

し、腹部、膝、足裏、腰、背各5分、後頭部（小脳）と眼部は第一集光器を使い朝晩各5～10分照射した。その結果、今年の四、五月頃より、テレビも少しは見える様になり、九月には一人で外出出来るまで視力は回復した。（最近、一人で京都まで出かけ、家族は心配したそうです。）

☆水頭症

前所長・故宇都宮義真先生が、生前口癖のように、「火傷には光線療法が世界一だよ」とおっしゃっていたことが、今まで脳裏に焼きついています。そして図らずも、ちょっとした不注意が原因で四度の大火傷をしたのを、光線療法でほぼ完全に治しましたので経過の概要を報告します。

昭和5年5月10日に受傷。火傷の程度は、両手の指全部と肩骨の下の部分と足が水疱を作りましたが二度の火傷で、腰から臀部の上部にかけては三度から四度の火傷です。

一台は手、一台は腰と言うよこにして掛けました。このため日十五時間位、掛けた日もあり

ます

に樂になり、十日から二十日で全快しましたが、皮膚が黒こげ

になつた三度から四度の部分は
四日目に、光線を掛けた後に注
薬やアロエを塗つて上から覆
ておいたガーゼに黒こげの部
分がくつついて剥れてからの苦
みが、むしろ大変でした。炭化
した皮膚が剥れた部分は、深く
一・五cm前後で、ザクロの実だ
ぎつり並んだような状態です。
そのため、常にうつぶせの姿勢
で、両股から腰こぶまで伸び

十病日頃 家族があまりに忙
れることもあって、火傷の薬を
薬局で購入しました。これが結
果的には大失敗で、薬を使い込
めて四日目には痛み出し、悪化
させてしまったのです。多分、

化膿させたのでしようが、その後は、迷わず光線一本で治療する決心をしました。写真1は、

色を増加してきました。残りは五・六ヶ所に、米粒大の傷が散

在していました。
写真3は九五病日で写したものです。傷は治りましたが、火傷の傷跡の痒みに悩まされた頃です。痒みのため、夜中に何回か目が覚め、その都度樂になるまで治療したため、慢性的の睡眠不足になり、やや精神的にも不安定な心情になりました。このため、光線を愛用されている内科・小児科の先生に、処方していただきいつもしました。
日が経つにつれ、痒みも薄らいできました。今では、昼間の痒みはなくなり、夜も痒みで目が覚めることは殆んどなくなり、朝まで睡眠できるようになりました。
先生も「本当にすばらしい治療ですね、ケロイドも白斑も残さないのは、全く光線の力ですね」と申されています。

四分の一は元の肌の色になりました。痒みも完全になくなる日

光線療法の照射部位および照射時間は三例とも、肛門、腰、腹、足裏、後頭部、左右側腹部などを主にして、症状により適宜他部位も加えながら、一ヶ所十～十五分、総計六十分から八

TEL〇九二一五八一一二〇三九
多発性硬化症と
光線療法

多発性硬化症と
色線素病

を落ち着いた気持で待てるようになります。

症状経過　来院時、満月様顔貌、全身に丘疹状の発疹があり、薬の副作用と考えられた。また、病院初診時の症状に加えて、腰部、下肢に筋肉痛を認めた。

光線療法を始めて最初に見られた著しい変化は、排尿が容易になつたことで、このため許可を得て病院内にもサナモアを持ち込み治療した結果、2ヶ月後には、自発尿が可能になつた。

起始経過 昭和53年2月に、食欲不振、めまい、手足のふるえ、歩行、言語、排尿障害を主訴に某大学病院に入院し、多発性硬化症と診断された。その後も継続入院で投薬を受けていたが、病状が好転しないため、同年4月に病院の許可を得て来院した。

A B, A C、
A Aなど交互に使
用した。十分行つた。

めまい、手足のふるえ、腰や股が強張り歩行が不自由、排尿が思うにまかせない、筋肉痛などの症状で、某市立大学病院を受診し、精密検査の結果、多発性硬化症と診断された。当院へは、同年の二月二日、夫人が同伴して来られた。

たが、再発防止のために自宅治療は続いている。
本例は発病から五年を経過し、現在は41才になるが、再発することなく、毎日を明るく暮している。

た。同時に病院からの投薬が中止されたので、満月様顔貌、発疹は消失し、治療開始3～4ヶ月で正常化した。

症例3 48才 男性

格に、自家での治療も含めて、光線治療を行った結果、七月主には寛解に導入出来たのである。現在も再発防止のため光線療法を続けている点は症例1と同じで、夫人からの連絡によれば異常を訴えることなく、安心して仕事に従事しているとのことです。

行が容易になり、排尿障害も改善して、症状は著しく軽快した。それ故、このまま完全寛解に入

徒らに入院が長くことからむしろ光線浴の機会は奪われているのが実情であろう。ここに極めて難治な疾患として知られる、多発性硬化症の三症例の治療体験を報告したが、光線療法が本症患者に一筋の光明でも与えることを願つて止まない。

川崎市中原区丸子通一一七〇九
TEL〇四四一七二一五〇六七

考案ならびに結語 多発性硬化症が光線に恵まれた地方には稀で、熱帯への転地療養が有効なことは、以前から指摘されてゐる通りである。にも拘らず、本症患者は歩行障害を伴い易いことと、有力な薬物がないためか現在は元気な仕事をしてい

ハ月の末陰時には仕事の疲れもなく働けるが、まだ、耳鳴り、皮疹もあり、完治を目指して鋭意治療中である。

ビタミン

大量療法の問題点

ビタミンDは必要量を食事で補うことが難かしいため、本号の応用光線療法学に記載したように、現在もビタミンD欠乏症があるのに対し、バランスのとれた食事である限り必要量は含まれるため、欠乏症のあり得ないビタミンD以外で、ビタミン大量療法が話題になっています。

皆様の記憶にも新らしい様に、ついこの間までビタミンBの大

量療法が持てはやされていました。これがやや下火になつたら

次は、アメリカからビタミンCやビタミンEの大量療法が輸入され流行り始めました。

元来、ビタミンは微量栄養素と呼ばれることからでも分るよ

うに、ビタミン欠乏症の観点か

らみれば、大量療法の必要性は全くありません。その上、自然の摂理は、ビタミンD以外のビタミンは、地上の食品から必要

量を摂取できるようになつてい

ます。これに対し、大量療法を推進している人々は、本来のビタミン作用はない特別な効果を求め

て、使用量をどんどんエスカレートさせた結果、今や天然食品

から摂取することは不可能な量になっています。具体的に、大量療法の使用量を天然食品の当該ビタミン含有量で、大雑把に換算してみましょう。

ビタミンC大量療法で、創始者のボーリング博士が推奨する量を、ビタミンC含有量の多いレモンで換算すると、毎日四〇〇ヶ食べる必要があります。ビタミンE大量療法の場合には、これを豊富に含む小麦胚芽を、毎日2~3kg摂らなければなりません。

このことは、一般的な意味でのビタミン摂取とは言い難く、従つて、ビタミン剤は無害と言えません。

先入観も、再検討することが必要になります。勿論、必要量を自然な形で摂る分においては、無害なことに疑義はありませんが、ビタミン大量療法の使用量は、従来のビタミン学の範囲は遥かに越えていて、人類にとって未だ未知な薬物療法の範疇に属する問題として捉える必要があると考えるからです。

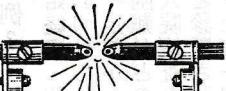
ビタミン大量療法は、栄養学の分野を離れ、薬効効果を目的とした治療法です。それ故、効果の真否は素より、副作用についての研究も必要な筈です。然るに現状は、飲めば飲む程効果があると言う反面、副作用は普通服用時の知識で間に合わせられるような安直さが気になります。

一般的に、水溶性ビタミン(BやC)は速やかに排泄されるため、副作用は少ないと言われますが、ビタミンC大量療法の副作用として、電解質の喪失(カルシウム等)、尿路結石などが報告されています。他方、脂溶性ビタミン(AやDやE)は、体内に蓄積される関係で副作用

を伴い易く、既にAとDではよく知られています。ビタミンEについては、比較的副作用がないとされてきましたが、破天荒な大量投与となると、副作用としてはならないのです。このためにも、特に副作用については、早く急に検討し直す必要があります。私達の先祖には、毎日レモン四〇〇ヶに小麦胚芽2kgも食べ人は居りません。むしろ食料事情が悪いためにあつたビタミン欠乏症を克服することが大切だつたのです。これに対し、日光には親しんでいたため、ビタミンD欠乏症はなかつた筈です。これが今では逆になつています。現在の日本は、潤沢な食料に加え、栄養学的な意味でのビタミンの知識が常識化したため、食品から摂るビタミンについては、余程の偏食がない限り欠乏症はありません。でも、日光ビタミンのビタミンDは、日光を浴びる機会が減つたため、多くの人々で不足しています。

健康を願うなら、足らざるを補う意味でも、ビタミンDに关心を持つべきではないでしょ

サナモア



Sunmaya

サナモア 光線協会

趣意書

光線療法が、人々の健康に寄与し得ることは疑いないにも拘らず、現状の医療体系は薬物手術に偏し、光線の効果についての一般的認識はなお不十分と言わざるを得ません。このため、人々の健康を願つと共に光線療法について啓蒙・普及活動を行う目的で、サナモア中央診療所内にサナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、会員相互の懇親・体験発表・意見交換を通して、光線療法についての理解を深めるため「健康と光線」を季刊にて発行します。

サナモア光線協会
医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛て申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03)793-15281
(七一二一五三二二)

新年は一月五日（水）
から営業を開始します。